

# 武藏野台地と霞川

元・青梅市文化財保護指導員 角田 清美

## テーマの設定

武藏野台地は、東青梅から台東区上野までに広がる日本最大の台地で、一方の霞川は、武藏野台地と北側の加治丘陵（霞丘陵）の間を流れる、二級河川。身近な土地と河川であるが、間われてみると、知っているようだが、知らないことの方が多い。そこで、チェックポイントを設定し、振り返ってみましょう。

## 1. 西多摩建設事務所の地図で、霞川流域を見る。

- (1) 霞川の源流は、柿ノ沢にある広場？天寧寺の霞池？北谷津？
- (2) 市立第四小学校の東端で合流し、ここからが霞川。
- (3) 北側に広がる加治丘陵から流れ下る塩船川・吹上川・大門川などを合流させ、約6km流れ下り、埼玉県入間市を経てから、入間川に合流する。  
→ 総延長は約16.8km
- (4) 上流の根ヶ布から今井までには、広大な水田地帯が広がっている。
- (5) 根ヶ布から藤橋までは井戸が浅く、水に恵まれている。
- (6) 藤橋一丁目（丸山）や今井一丁目（鍛冶屋）には、今から1万年以上前からの遺跡がある。
- (7) 周囲に城跡が残っている。
- (8) 古くからの寺院や神社が多い。
- (9) 霞川に架かる橋
  - ・公札橋 → 高札橋
  - ・鳥井戸橋 → 鳥居戸橋

## 2. 武藏野台地

- (1) 土地は広大な平坦地。
- (2) 地表面は黒土に覆われ、その下は褐色の関東ローム層と称される褐色土。
- (3) 関東ローム層に下は礫層で、さらに下は砂利を含んだ土丹層。
- (4) 地下水面が深い。
- (5) 地表面には川や湧水地がない。
- (6) 水に恵まれないため、水田耕作が出来ない。
- (7) 冬季、強風に見舞われると、アカツカゼに見舞われる。
- (8) 開発の歴史が新しい。

## 3. 武藏野台地と霞川の両側に広がる丘陵地

- (1) 霞川の北側に広がるのは、加治丘陵（霞丘陵）。
- (2) 多摩川の南側に広がるのは、草花丘陵（長淵丘陵）。

## 迷い子石

市文化財保護指導員 角田清美

本来であれば、「自然」状態では絶対、その位置に存在する」ことがない。石を、「迷い子石」と言います。石や岩には足がないので、自由に動けません。存在するわけがないのにドーンと鎮座するには、何らかの理由があるからです。市内には、2か所に「迷い子石」があります。

一つ目は、根ヶ布(北沢)と黒沢を結ぶ山道で、犬谷津峠の北方に鎮座している「オニギリ石」です。オニギリ石は、大きさが約1m、どこなく

付近の地質はすべて砂が固まつた砂岩で、この近くでチャートが分布する

のは、北小曾木や平溝川流域ですから、数キロ以上

の距離を運ばれることになります。

二つ目は、駒木野から

旧二ツ塚峠へ向かう途中にあり、地元では「蒟蒻

石」と呼ばれています。

蒟蒻石は、幅約14m、高

さ約5mの大きさで、表

面は蒟蒻玉に似てノッペ

リしていますが、これも

硬いチャートです。

南麓から南方では浅川の



△蒟蒻岩

秋川などによつて山地を作った大小の礫が、それぞれ大きな扇状地を作つていました。その後、地盤の上昇の結果、多摩川などの河川によつて山地を作られたかは不明であるため、チャートを含む礫層を調べると、礫層内には、多

摩川流域では源流付近だけに分布する、花崗岩質

やホルンフェルスの礫が含まれています。

の地形は、現在とは大き

く異なり、成木7丁目が

記録しているので、「迷

い子石」ではなく、「記録

石」と呼んだ方が正しいかもしれません。

問い合わせ 郷土博物館

高麗川、入間川、多摩川

秋川などによつて運ばれ

た大小の礫が、それぞ

れ大きな扇状地を作つて

いました。その後、地盤の

上昇の結果、多摩川など

の河川によつて山地を作

られたかは不明であるため、

チャートを含む礫層を調

べると、礫層内には、多

摩川流域では源流付近だ

けに分布する、花崗岩質

やホルンフェルスの礫が

含まれています。

の地形は、現在とは大き

く異なり、成木7丁目が

記録しているので、「迷

い子石」ではなく、「記録

石」と呼んだ方が正しい

かもしれません。

問い合わせ 郷土博物館

高麗川、入間川、多摩川

秋川などによつて運ばれ

た大小の礫が、それぞ

れ大きな扇状地を作つて

いました。その後、地盤の

上昇の結果、多摩川など

の河川によつて山地を作

られたかは不明であるため、

チャートを含む礫層を調

べると、礫層内には、多

摩川流域では源流付近だ

けに分布する、花崗岩質

やホルンフェルスの礫が

含まれています。

の地形は、現在とは大き

く異なり、成木7丁目が

記録しているので、「迷

い子石」ではなく、「記録

石」と呼んだ方が正しい

かもしれません。

問い合わせ 郷土博物館

高麗川、入間川、多摩川

秋川などによつて運ばれ

た大小の礫が、それぞ

れ大きな扇状地を作つて

いました。その後、地盤の

上昇の結果、多摩川など

の河川によつて山地を作

られたかは不明であるため、

チャートを含む礫層を調

べると、礫層内には、多

摩川流域では源流付近だ

けに分布する、花崗岩質

やホルンフェルスの礫が

含まれています。

の地形は、現在とは大き

く異なり、成木7丁目が

記録しているので、「迷

い子石」ではなく、「記録

石」と呼んだ方が正しい

かもしれません。

問い合わせ 郷土博物館

高麗川、入間川、多摩川

秋川などによつて運ばれ

た大小の礫が、それぞ

れ大きな扇状地を作つて

いました。その後、地盤の

上昇の結果、多摩川など

の河川によつて山地を作

られたかは不明であるため、

チャートを含む礫層を調

べると、礫層内には、多

摩川流域では源流付近だ

けに分布する、花崗岩質

やホルンフェルスの礫が

含まれています。

の地形は、現在とは大き

く異なり、成木7丁目が

記録しているので、「迷

い子石」ではなく、「記録

石」と呼んだ方が正しい

かもしれません。

問い合わせ 郷土博物館

高麗川、入間川、多摩川

秋川などによつて運ばれ

た大小の礫が、それぞ

れ大きな扇状地を作つて

いました。その後、地盤の

上昇の結果、多摩川など

の河川によつて山地を作

られたかは不明であるため、

チャートを含む礫層を調

べると、礫層内には、多

摩川流域では源流付近だ

けに分布する、花崗岩質

やホルンフェルスの礫が

含まれています。

の地形は、現在とは大き

く異なり、成木7丁目が

記録しているので、「迷

い子石」ではなく、「記録

石」と呼んだ方が正しい

かもしれません。

問い合わせ 郷土博物館

高麗川、入間川、多摩川

秋川などによつて運ばれ

た大小の礫が、それぞ

れ大きな扇状地を作つて

いました。その後、地盤の

上昇の結果、多摩川など

の河川によつて山地を作

られたかは不明であるため、

チャートを含む礫層を調

べると、礫層内には、多

摩川流域では源流付近だ

けに分布する、花崗岩質

やホルンフェルスの礫が

含まれています。

の地形は、現在とは大き

く異なり、成木7丁目が

記録しているので、「迷

い子石」ではなく、「記録

石」と呼んだ方が正しい

かもしれません。

問い合わせ 郷土博物館

高麗川、入間川、多摩川

秋川などによつて運ばれ

た大小の礫が、それぞ

れ大きな扇状地を作つて

いました。その後、地盤の

上昇の結果、多摩川など

の河川によつて山地を作

られたかは不明であるため、

チャートを含む礫層を調

べると、礫層内には、多

摩川流域では源流付近だ

けに分布する、花崗岩質

やホルンフェルスの礫が

含まれています。

の地形は、現在とは大き

く異なり、成木7丁目が

記録しているので、「迷

い子石」ではなく、「記録

石」と呼んだ方が正しい

かもしれません。

問い合わせ 郷土博物館

高麗川、入間川、多摩川

秋川などによつて運ばれ

た大小の礫が、それぞ

れ大きな扇状地を作つて

いました。その後、地盤の

上昇の結果、多摩川など

の河川によつて山地を作

られたかは不明であるため、

チャートを含む礫層を調

べると、礫層内には、多

摩川流域では源流付近だ

けに分布する、花崗岩質

やホルンフェルスの礫が

含まれています。

の地形は、現在とは大き

く異なり、成木7丁目が

記録しているので、「迷

い子石」ではなく、「記録

石」と呼んだ方が正しい

かもしれません。

問い合わせ 郷土博物館

高麗川、入間川、多摩川

秋川などによつて運ばれ

た大小の礫が、それぞ

れ大きな扇状地を作つて

いました。その後、地盤の

上昇の結果、多摩川など

の河川によつて山地を作

られたかは不明であるため、

チャートを含む礫層を調

べると、礫層内には、多

摩川流域では源流付近だ

けに分布する、花崗岩質

やホルンフェルスの礫が

含まれています。

の地形は、現在とは大き

く異なり、成木7丁目が

記録しているので、「迷

い子石」ではなく、「記録

石」と呼んだ方が正しい

かもしれません。

問い合わせ 郷土博物館

高麗川、入間川、多摩川

秋川などによつて運ばれ

た大小の礫が、それぞ

れ大きな扇状地を作つて

いました。その後、地盤の

上昇の結果、多摩川など

の河川によつて山地を作

られたかは不明であるため、

チャートを含む礫層を調

べると、礫層内には、多

摩川流域では源流付近だ

けに分布する、花崗岩質

やホルンフェルスの礫が

含まれています。

の地形は、現在とは大き

く異なり、成木7丁目が

記録しているので、「迷

い子石」ではなく、「記録

石」と呼んだ方が正しい

かもしれません。

問い合わせ 郷土博物館

高麗川、入間川、多摩川

秋川などによつて運ばれ

た大小の礫が、それぞ

れ大きな扇状地を作つて

いました。その後、地盤の

上昇の結果、多摩川など

の河川によつて山地を作

られたかは不明であるため、

チャートを含む礫層を調

べると、礫層内には、多

摩川流域では源流付近だ

けに分布する、花崗岩質

やホルンフェルスの礫が

含まれています。

の地形は、現在とは大き

く異なり、成木7丁目が

記録しているので、「迷

い子石」ではなく、「記録

石」と呼んだ方が正しい

かもしれません。

問い合わせ 郷土博物館

高麗川、入間川、多摩川

- (3) 武藏野台地の中に聳えるのは、狭山丘陵。
- (4) 丘陵地の地質は、奥多摩から多摩川が運んできた丸石（礫層）が堆積し、その下位には粘土層が埋まっている。
- (5) 昭和40年頃まで、丘陵地は住民にとって大切な「葉山」であった。

#### 4. 農作物の、土地による違い

- (1) 台地 … 穀物は麦で、野菜は大根・ニンジン・イモなどの根菜類の栽培に適している。
- (2) 霞川と低地 … 穀物はコメで、野菜はネギ・白菜などの葉物類の生産が多い。  
→ 御馳走は、餅、饅頭、それとも蕎麦？

五穀と雑穀 … 米・麦・豆・粟・稗・黍

(世界の主要穀物) … 米・麦・コーン (トウモロコシ)

#### 5. 農作物の副産物として

- 台地 … 麦わら
- 霞川と低地 … 稲わら  
→ 繩を造るには、  
→ かつての農家には、シュロの木が多かった。

#### 6. 建築資材など

- (1) 壁材の違い（泥壁と板壁）
- (2) 屋根材の違い（麦わら屋根・茅屋根・杉皮屋根・板屋根・瓦屋根）  
→ 西多摩地区にはセメント瓦の屋根が多い。
- (3) 土管の生産と利用

#### 7. 新町や藤橋でも水害は起きる

- (1) 新町村の成立  
江戸時代の初期（1611年）、師岡村の吉野織部之助が中心となって開発した。開発に先立って5か所に井戸を設けた。
- (2) 藤橋村は霞川低地と矢端堀の間で、本宿から七日市場を中心に成立した。

#### 8. 現代の都市計画と土地利用

- (1) 青梅鉄道の開設
  - ・明治27（1894）年、5年前に開設された立川駅から、青梅鉄道が宮ノ平駅まで開設された。宮ノ平駅付近で発掘された石灰石を搬出するためである。当初、小作駅と青梅駅の間に駅はなかった。
- (2) 河辺駅の開設
  - ・周辺住民からの要望を受け、昭和2（1927）年に営業を開始した。かつて

- は南面する赤く大きな三角屋根で、改札口も南側にあった
- ・昭和 47（1972）年、現在の駅舎が改築された。昭和 55（1980）年までは、貨物も取り扱っていた。
  - ・平成 20（2008）年、北口に歩行者専用デッキ「びっぐぶらむ」が完成。
- (3) 東青梅駅の開設
- ・昭和 7（1932）年、地元人たちに加え、小曾木や成木地区の人たちの強い要望で開設された。
  - ・昭和 39（1964）年、北側の人たちの便利さに応じるため、橋上駅になった。
- (4) 青梅市役所の成立と移転
- ・昭和 26（1951）年、青梅町・霞村・調布村が合併し青梅市が成立した時、市役所は旧青梅市民会館の東側に建っていた。
  - ・昭和 36（1961）年 11 月、庁舎が狭かったため、東青梅一丁目に移転した。
  - ・平成 22（2010）年 5 月、業務の拡大と、建物が古くなつたため、現在の建物が完成した。
- (5) 東部の開発
- ・昭和 28（1953）年、都知事から「青梅土地区画整理組合」の認可を得る。
  - ・昭和 39（1964）年、河辺地区の整理事業が完成する。（格子状の道路網・地名番地）
  - ・昭和 42（1967）年、青梅東部地区の整理事業が完成する。
  - ・昭和 47（1972）年、城前地区の整理事業が完成する。
  - ・昭和 54（1979）年、三ツ原地区の整理事業が完成する。
  - ・昭和 56（1981）年、新町地区の整理事業が完成する。
- (6) 公共施設の開設
- ・昭和 46（1971）年、青梅郵便局が勝沼から移転した。
  - ・昭和 55（1977）年、市立総合病院が救命救急診療を行うと同時に、休日・夜間も重症患者を受け入れるようになる。
  - ・昭和 55（1977）年、青梅市総合体育館が開設される。（昭和 50 年頃、短期間ではあったが、ボーリング場が営業していた。）
  - ・昭和 62（1987）年、都立青梅図書館は都立多摩図書館に統合されたため廃止され、河辺駅前に青梅市立図書館本館が開館した。
  - ・平成 14（2002）年、圏央道・青梅インターの利用が始まる。

## 9. 青梅市域の土地が形成された歴史

- (1) 今から 50 万年、あるいはそれ以前の状態
- (2) 今から 10 万年前頃
- (3) 今から 2 万年前
- (4) 今から 5 千年前頃。
- (5) 今から 1 千年前頃。

→ 生活環境や産業は、土地が形成された歴史と深い関係がある。